

研究炉が切り拓く未来の研究 次世代の人材育成

Future research and human resources development using research reactors

研究用原子炉（以下、「研究炉」）は、原子力分野の技術開発や人材育成は当然のこと、医療・検出器開発・原子核物理・放射線計測学などの多岐にわたって非常に有用なツールとなってきた。

2011年に発生した東日本大震災の影響で、国内の各研究炉は直接的・間接的な要因で長期間運転が停止されており、研究や教育の停滞が懸念されていた。しかし、2017年に近大および京大の研究炉が相次いで原子力規制庁の定めた新規規制基準をクリアし、この状況が大きく改善された。これを機に、本シンポジウムでは、近大炉、京大炉および原子力機構JRR-3をピックアップし、過去の実績や今後の展望について取り扱う。

- (1) JRR-3の多彩な中性子利用とユーザーフレンドリーな
供用体制の構築を目指して 松江 秀明 (日本原子力研究開発機構)
- (2) JRR-3における中性子散乱大学共同利用
柴山 充弘 (東京大学物性研究所)
- (3) KURの概要と近況
堀 順一 (京都大学複合原子力科学研究所)
- (4) 京都大学臨界集合体実験装置におけるADS研究および
人材育成の活動 下 哲浩 (京都大学複合原子力科学研究所)
- (5) UTR-KINKIの概要と近況
若林 源一郎 (近畿大学原子力研究所)
- (6) UTR-KINKI炉内 γ 線の線質評価
遠藤 暁 (広島大学工学研究科)

世話人:

金 政浩 (九大総理工)、増田 明彦(産総研)、越水 正典(東北大院)